



第3会場●4F 視聴覚室

司会／吉岡 康行 広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課 主任社会教育主事
草野裕美子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

1 由布市庄内町6小学校集団宿泊指導の教育効果 ーここのえチャレンジスクールの論理と方法ー

13:35~14:05

山崎 充(大分県) 大分県立社会教育総合センター 九重青少年の家 指導主事

対象は同一中学校に進学する町内の6小学校の生徒64名。「基本的生活習慣」、「規範意識」、「協調性」を育成し、「中一ギャップ」を軽減できるよう人間関係の構築を目標とした。事前の平行研究として他地域の異なった小学校の5年生を対象とした4泊5日の宿泊体験プログラムも実施した。教育方法の基本は親元を離れた「集団」・「宿泊」体験とし、プログラムは各種の体験教育、仲間づくり活動、班活動を核とした飯田高原探索や地熱発電を素材とした環境教育である。3年に渡るIKR調査結果は、「思いやり」、「明朗性」、「交友」、「協調」、「積極性」などの項目でプラスの変化を示している。

2 地域資源を活かした花と歴史と安らぎの郷づくり ー過疎に立ち向かう課題解決型地域づくり組織の協働戦略ー

14:10~14:40

柴田 俊彦(山口県下関市) 榎原ゆうあい会 事務局長

少子高齢化が進み、休耕田や荒廃地が広がる豊田町榎原地区で、定年帰郷者たちが中心となって平成19年4月に組織を立ち上げ、自らの経験や知識を活用しながら地域づくりに取り組んできた。多世代の住民を巻き込みながら歴史ある肥中街道を再生し、「梨の花ウォーク」や「歴史街道ウォーク」に活用、郷土史講座の開催、花いっぱい・景観の整備など、地域資源をフルに活かして地域の交流人口増に寄与している。行政、自治会、観光協会、文化協会、道の駅、関係企業等と連携し、寄付金や県・市の助成金を活用するなど、協働による課題解決を進めている。

ティータイム

14:40~15:05

3 学校と地域がとけあう学びの創造ー学社融合10年の歩みを生かしてー

15:05~15:35

遠藤 敏朗(愛媛県松山市) 松山市立堀江小学校 校長

「学社融合パイロット地区(平成14年)」、「地域コミュニティ推進モデル地区(平成17年)」の指定を契機として学校と公民館が連携して、様々な取り組みを積み上げてきた。活動の基本理念は、「地域に根ざした教育力」、「子どもを核としたまちづくり」、「ふるさと志向」である。公民館と学校の継続的協働の仕組みづくりを目指し、公民館予算、まちづくり予算、PTA予算などの有機的連携を図り、地域ボランティアや地元企業などの協力も得て、学校を拠点として人材を活用し、人々を繋ぎ、地域の伝統芸能・文化を継承できる地域づくりを進めてきた。

4 どうなるこの町、どうするこの街、あなたが主役! ーデータで検証する大蔵流まちづくりー

15:40~16:10

芳賀 茂木(福岡県北九州市) 大蔵まちづくり協議会 顧問

大蔵地区は市内有数の少子高齢化地域である。経験則重視、前年踏襲、他人任せの地域活動を見直すため、平成20年から北九州市立大学と協働した定期的な地域調査を開始した。

手始めは「独居者調査」、次に「70歳以上世帯編」等の「高齢者ニーズ調査」を行って具体的なデータを住民に提示した。

平成22年には、集合住宅関係の諸課題解決のため東京、京都、北九州の住宅団地の関係者を集めた「集合住宅サミットin大蔵」を開催した。

この間、生み出したプログラムは、幼老共生を目指した大蔵ウエルネスクラブ(「次世代福祉活動者育成事業」)、小学校の「生活科」・「総合学習」への支援活動、市民の研修を目的とした「大蔵流土曜大学」、空き家を活用した「引きこもり防止のための大学生・ふれあいサロン」などである。

成果は、地域実態が住民に共有化され、長期計画の立案、関係団体との連携が可能となり、組織の運営や意思決定の透明性が実現したことである。